

【活動報告】

四季の森公園「自然を訪ねて～秋の実りと草花たち」

日 時：10月27日（日）13：00～15：00

場 所：県立四季の森公園 はず池・あし原湿原周辺

参加者：一般20名、スタッフ6名、公園職員1名

時々小雨が降る曇天のもと、いろいろな木や草の種子散布の様子を見てまわりました。



ヤブタバコとコヤブタバコのベタベタするタネ(瘦果)を触っています。



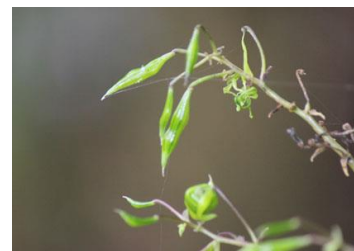
ミズヒキ、イノコヅチ、コセンダングサなどなどチクチクするタネで動物にくっつくひっつき虫もたくさん見られました。

↑ズボンに付いたヌスビトハギのタネ(節果)

←カツラを観察。袋状の実の中に翼がついた小さな種子がたくさん入っていました。



自動散布で種子を飛ばすツリフネソウを観察。
よく膨らんだ実をつくと、弾けて種子が飛び出します。



ツリフネソウの実



花も少し残っていました。



ゲンノショウコは熟して乾いた果皮がめくれ上がるときに種子が飛ばされる。飛んだ後の形から別名ミコシグサ。



花と若い実



ロケット形の実

カタバミの花と実
種子はロケット形の実の中にあり、種子を包むゴムボール状の袋が裂けて裏返るとその反動で実の裂け目から飛びす。種子には粘液もついていて動物にくっつきさらに遠くへ運ばれる。

自動散布でタネを飛ばすゲンノショウコとカタバミを観察。



シナサワグミの実



イロハカエデの実

シナサワグミの2枚の翼のついた実(真ん中に種子が1個)を投げ上げています。大半はポトリと落ちますが、時々くるくる回りながらゆっくり落ちました。カエデの実は種子が1個で翼が1枚ですが2個くっついて木に付いています。投げ上げてみると、くっついたままだとポトリと落ちるだけですが、1個ずつにすると100%くるくる回りながらゆっくり落ちていきました。

他にも、動物に食べられて種子が運ばれるガマズミの実、リスやネズミが土中に貯蔵した後、食べられなかった種子が発芽するヒメグミの実や、コナラ・クヌギ・シラカシのどんぐり、ふわふわの綿毛でタネを飛ばすタイアザミやセンニンソウ、水に浮くタネをつけたジュズダマ、きれいに開花していたトリカブトやユウガギク、シロヨメナなどなど、盛りだくさんの秋を観察できました。